

授業科目	ニューツーリズム論				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	TO31507J		
開講年次	3	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP1-4 DP2-1 DP2-2 DP3-1			
担当教員	友原 嘉彦							
授業概要	<p>本科目では国内外のさまざまな事例を通して、ニューツーリズムについて検討していく。さて、ニューツーリズムとは換言すればリキッド化する後期近代におけるさまざまなテーマ別の観光形態のことである。日本においては前世紀末頃まで続いた「みんな一緒の観光」形態とは一線を画す。なお、観光庁は2008年の設置以来、ニューツーリズムの促進に注力していたが、2016年より「テーマ別観光による地方誘客事業」と捉え直して推進している。「XX ツーリズム」とはよく聞き、多様なバリエーションがあるが、本科目でもそれらの一部を取り上げ、持続可能性についてよく検討していきたい。</p> <p>成績評価はレポートの出来を主とするが、授業参加・貢献度も2割を占めているので、積極的な参画を期待する。</p> <p>◆遠隔授業の科目です。</p>							
学生が達成すべき行動目標	国内外のさまざまな事例を通して、各種のニューツーリズムについて把握し、それらのプッシュファクターとプルファクターについて検討する。これらの作業を通して、社会全体の課題と我々がどのような態度で今を生きしていけばよいのか考えることができる。							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	80	0	0	20	100	
知識・理解 (DP1-1)			20				20	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)			20				20	
思考・判断 (DP2-1)			15				15	
思考・判断 (DP2-2)			25				25	
関心・意欲 (DP3-1)						20	20	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
自他がどのようなテーマで観光をしたいのかについて国内外のさまざまな事例を通してよく知ることができる。それらの各種ニューツーリズムについて把握し、プッシュファクターとプルファクターについて検討する。これらの作業を通して、社会全体の課題と我々がどのような態度で今を生きしていけばよいのかしっかりと考えることができる。				自他がどのようなテーマで観光をしたいのかについて国内外のさまざまな事例を通して知ることができる。それらの各種ニューツーリズムについて把握し、プッシュファクターとプルファクターについて検討する。これらの作業を通して、社会全体の課題と我々がどのような態度で今を生きしていけばよいのか考えることができる。				
授業計画								

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	ガイダンス	講義	復習	40
2	マスツーリズム	講義	復習	80
3	1960年代からの後期近代	講義	復習	80
4	ブルデューの文化資本論	講義	復習	80
5	パリはなぜ魅力的なのか	講義	復習	80
6	バンコクはなぜ魅力的なのか	講義	復習	80
7	世界帝国の栄華への感慨 リスボンとイスタンブールを歩く	講義	復習	80
8	小さくても美しいオーストリア	講義	復習	80
9	ヨーロッパの美術館巡り	講義	復習	80
10	かつて銀、石炭、塩などを産出した旧鉱山地域は今	講義	復習	80
11	若者に人気の韓国はなぜ人気なのか	講義	復習	80
12	温泉地プラス(熊本県人吉市と水俣市を事例として)	講義	復習	80
13	死を見据える旅(インドのヴァラナシ、スウェーデンのスコグスシュルコゴデンなどを事例として)	講義	復習	80
14	最期を迎える旅(スイスを事例として)	講義	復習	80
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				

23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	note などブログや SNS を通して、日頃よりさまざまな観光行動のあり方について触れてください(もちろん新聞などの従来型メディアからでも可)。			
テキスト	レジュメを配布します。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠藤英樹(2017)『ツーリズム・モビリティーズ 観光と移動の社会理論』ミネルヴァ書房</li> <li>・アンソニー・エリオット、ジョン・アーリ著、遠藤英樹監訳(2016)『モバイル・ライブズ 「移動」が社会を変える』ミネルヴァ書房</li> </ul>			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	観光(だけではないですが)における志向は個人的である面もあり、属性的である面もあります。この科目をきっかけに皆さん自身の観光志向やほかの属性にある人達の観光志向を「なぜそうなのか」考えてみましょう。そのことにより、社会のあり方に気付く瞬間があれば幸いです。			
達成度評価に関するコメント	<p>全方向にリキッド化が進んだ当世は答えのない、レールのない時代です。よく生きるには自分で価値を創っていくしかありません。観光もたくさんの「XX ツーリズム」が言われるようになりました。ある人にとってはまったく無価値なものでも、別のある人にとっては大変有意義なものというように価値が細かく分散しています。本科目を通して、皆さん自身の(今の)価値と別の属性を持つ人達の価値をよく学んでいただければと思います。</p> <p>達成度評価の「そのほか」とは、授業への参加・貢献度です。単に出席しているだけでなく、(意義のある)意見を発言してくれたり、過ぎた講義回での項目について復習していることで簡潔にまとめて説明してくれたり、といったことが得点の増加に関係します。一方、これらが不十分なだけでなく、授業を中断せざるをえないほどの声量で授業とは無関係のことについてしゃべっているなどした場合は得点の減少に繋がります。</p>			

